

発行：一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団（キッズファム財団）

Foundation for Severely Ill Children and Their Families



ご挨拶

いつもキッズファム通信をご愛読いただき、ありがとうございます。

財団も設立後3年が過ぎ、活動内容も多種多様になってきました。これも多くの皆さまのご支援、ご協力のお蔭と感謝申し上げます。「もみじの家」を複数回ご利用いただいている方々も増えて、その間に普段できない事をされているご家族のお話を伺うと喜ばしく思います。財団の活動は、この次の見開きページにもありますように、主張コンクール、コン

一般財団法人
重い病気を持つ子どもと家族を支える財団
理事長 喜谷 昌代

サート、写真展、ファミリーフォト、講習会、カフェ、利用料支援など多くの活動をしています。そういったイベントにご参加頂いている皆さまに御礼申し上げますと共に、ご協力いただいているボランティアの皆様にも感謝申し上げます。

今後も重い病気を持つ子どもと家族が安心して楽しく暮らせる社会になることを目指して、いろいろな活動を続けてまいります。引き続き、皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

☆財団の主なイベントご紹介

■医療的ケア児者の主張コンクール グランプリは高橋翔太君

2019年3月16日(土)に、国立成育医療研究センターの講堂にて、医療的ケア児者の主張コンクール～未来の夢と希望を発信しよう～が開催され、今年は8名の方がご自身の思いを届けて下さいました。

当財団の石井理事より開催の挨拶、審査員3名のご紹介、続いて8名の発表者の方々(福岡からの生中継も挟みながら)が、将来の夢や希望など溢れる思いを真剣に語って下さいました。発表者の医療的ケアの程度は個々に異なり、年齢も10歳から33歳までと違いますが、『普通の学校に通い多くの友達と触れ合いたい』、『医療ケアという先入観で自分たちの可能性を奪わないで欲しい、選択肢を広げて欲しい』、『プール、ライブに行きたい』、『停電時に医療機器が使用できなくなることがないように社会全体で考えてもらいたい』



増田さんによる演奏

『字がかけようになって、言葉で自分の気持ちや想いを表現したい。人の支えになり、助けたい』など熱心に語る姿に聞き入ってしまいました。

審査発表までのひとは審査員のお一人であるヴァイオリニストの増田太郎氏のライブを楽しみました。増田氏のユーモアを交えながらの素晴らしい演奏と歌で会場の皆さんの心を和ませていただきました。



参加者の皆様

今年の医療的ケア児者の主張コンクールは下記の方が受賞されました。

- グランプリ【僕の夢】(高橋翔太/東京都)
- 準グランプリ【じがかけようになってつたえたいこと】(戸谷百花/埼玉県)
- 審査員特別賞【僕の挑戦と未来】(福島星哉/千葉県)

3名の審査員からは、これからも思い、希望、夢を発信し続けて欲しい、そこから可能性が広がることや皆さんの主張は障がい者以外の人にも希望を与える内容であり、多くの人に知ってもらいたいし、応援したいとの感想をいただきました。

一人ひとりの真摯な思いは大切な糧として今後の財団活動に活かしていきたいと思うと同時に、その思いに耳を傾ける社会にしていかなければならないことを深く感じました。

*発表者の動画は財団ウェブサイトでご覧いただけます。

■チャリティコンサート&カフェライブ

キッズファム財団では、昨年より「親子で楽しむコンサート」活動を始めて、これまで国立成育医療研究センター12階の「レストランつばさ」でコンサートを2回、また近隣の「カフェアパルトメント183」でカフェライブを3回実施いたしました。

【チャリティコンサート】

■2018年12月22日、ヨーデル歌手の伊藤啓子さんとエンツィアンの皆様によるヨーデルコンサートを行いました。当日は、あいにくの小雨が降る肌寒い一日でしたが、大勢の方にご来場いただき、非常に楽しいコンサートとなりました。



伊藤さん・エンツィアンの皆様による演奏



中村さん・松村さんによる演奏

■2019年1月21日、中村天平さん(ピアノ)と松村湧太さん(尺八・歌)によるコンサートを開催いたしました。美しい夜景をバックにアットホームな演奏会でした。医療的ケア児のお子さまたち7家族も含めて80名もの参加者がありました。

【チャリティカフェライブ】

■2018年11月29日、アーティストのKayto〔カイト〕さんによるアコースティックギターの演奏が行われました。ファンの方や近隣の方、お子さん連れのお母様方などがいらして下さり、ギターの音色と、素敵な生歌が響きました。



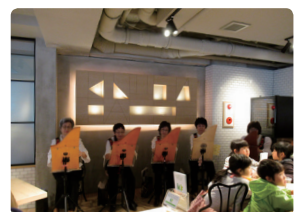
Kaytoさんによる演奏

■2019年2月20日、アートピア所属の桜井奈津美さんのピアノの優しい弾き語りや歌に加えて、奥田百合子さんの迫力あるサックスの演奏が行われました。大人から子どもまで、身体を揺らしながら楽しんでいる様子でした。地域の方々を中心に約55名の来場者があり、また、お子さん連れのお母様の姿も多く見られました。



桜井さん・奥田さんによる演奏

■2019年4月17日、ヘルマンハーブの演奏グループ「リヒト」の5名の皆様による演奏が行われました。約80名の方(約20名のお子様含む)にご来場いただき、大盛況でした。第1部の演奏後には、ヘルマンハーブの演奏体験ができ、大人も子どもも多くの方が実際に楽器に触れて楽しんでいらっしました。



リヒトの皆さんによる演奏

■写真展

各地で実施しました！

昨年来、もみじの家利用者の多くのご家族が「ファミリーフォトプロジェクト」に申し込みをされ、ご許可をいただいたご家族の写真を各地での写真展に使わせていただいています。

■2018年11月25日に新宿区立子ども総合センターでの「ここからまつり」にて会場の通路の壁面を使って写真展を実施しました。多くの一般の方々に重い病気を持つ子どもと家族のを知っていただく機会となりました。



新宿区立子ども総合センター

■2019年1月16日に千代田区の東京會館で「日本医療機器販売業協会主催の新春賀詞交歓会及び設立20周年記念式典」が行われ、会場のロビーで写真展を実施しました。全国の1千人近い医療機器関係者を始め、厚生労働大臣にも写真展を視察いただきました。



東京會館

■2019年3月10日に宇都宮の自治医大の「第10回日本小児心身医学会関東甲信越地方会」で「ファミリーフォトプロジェクト」の取り組みを発表するとともに、写真展を実施しました。

■世田谷区の国立成育医療研究センターのロビーでは、常設展を設置しています。季節ごとにボランティアの皆さんによる飾り付けが行われ、ここを訪れた皆さまがほっと一息できるコーナーになっています。ぜひお立ち寄りください。



国立成育医療研究センター

■スペシャルキッズサポーターの集い in 大阪 2019

2019年2月17日(日)宝塚大学大阪梅田キャンパスで開催された『スペシャルキッズサポーターの集い in 大阪 2019』に参加いたしました。スペシャルキッズとは、重い病気や障がいなど広い意味で課題を抱える子どもを意味する言葉として使われています。この「集い」はスペシャルキッズをサポートしている人々や団体が集い、ともに学び、連携していくことを目的としています。基調講演「ことばの力」、特別講演「病気や障害を抱えた子どもたちときょうだいのためのアートセラピー」では絵本やアートが子どもたちに大きな力となることを教えていただきました。



交流会ポスター発表

■学会発表

第10回日本小児心身医学会関東甲信越地方会で活動発表と写真展を実施

2019年3月10日(日)に、「こどものこころを育てる家族支援」をテーマとして、第10回日本小児心身医学会関東甲信越地方会が前自治医科大学附属病院副院長・看護部長、朝野春美大会長のもと開催されました。本財団はこの会で活動発表と写真展を行いました。



自治医科大学

一般講演Ⅰ(障がい児)において、財団理事の石井由美子が「ファミリーフォトプロジェクトの取り組み」について発表を行い、重い病気や障がいがあると写真スタジオで撮影を断られることから、医療型短期滞在施設「もみじの家」滞在中にカメラマンが撮影した写真をアルバムに入れてプレゼントするプロジェクトが始まったこと、2016年から現在まで163家族を撮影していること、参加いただいた家族の笑顔と家族から寄せられた楽しい体験談などを発表し、参加者から多くの関心を寄せていただくことができました。

また、昼食会場周辺において写真展示を行い、休憩や昼食時などに写真をご覧いただき、医療的ケアのある子どもとその家族の笑顔に、ひとときの癒しを味わっていただくことができました。ご協力いただきました皆様に感謝いたします。

■病児の遊びとおもちゃケア

2019年3月3日(日)成育医療研究センター講堂にて第14回公開セミナーに参加しました。活動報告後、吉藤健太郎氏(ロボットコミュニケーター)による、「人の繋がりで孤独を解消する分身ロボット OriHime の挑戦」の講演を聴き感動しました。学校に通えない子どもに OriHime を貸し出し希望を与えています。分科会では色々なワークショップがあり、参考になりました。

～第1回 チャリティゴルフ～

2019年3月5日(火)、キッズファム財団主催の第1回チャリティゴルフコンペが東京都多摩市の桜ヶ丘カントリークラブで行われました。当日は快晴、参加者の方はもちろん主催者側も満面の笑みで朝を迎えることができました。お仲間同士や初めてお会いした方々と組ませていただき、すぐに和気あいあいと世代を超えるゴルフの魅力を感じました。

プレー後のパーティ会場には、重い病気を持つお子さまやご家族の写真も展示させていただき、参加者の皆さまが真剣にご覧くださいました。

スポーツを通して、多くの方に財団の活動を知っていただいたこと、また快くご寄付を頂戴することができましたこと、あらためて皆さまに感謝いたします。





英国だより（２）

喜谷 昌代



皆様こんにちは。いよいよ令和の御代に入り、自然界にも美しい春から初夏が訪れる日々になって参りました。日本でも一年で最も艶やかな桜の咲く時期には、皆様方もきっと心の浮き立つ思いでいらっしゃる事と思います。

英国には冬時間と夏時間があり3月の最後の日曜日（今年は3月31日）の朝から夏時間になり、時計の針を1時間進ませます。今秋の10月27日の日曜日の早朝まで日本との時差は8時間になります。夏時間になりますと、夕暮れが伸び午後8時、9時近くまで空も明るく小鳥達もまだ巣に戻りたくないようで、大きな声でさえずって居ります。

日本より少々遅れて、ここ英国にも一年中で最も美しい季節がやって参りました。私の家のしだれ桜も日に日に蕾を膨らませ、明日にも咲き始めそうです。色は濃いピンクです。その他の春の花々もその多くが咲き始めラッパ水仙、チューリップ、ヒヤシンス等々が競って花を咲かせ、リンゴの花、藤も数日中に咲きましょう。次いで牡丹、クレマチス、パンジーなど色の濃い花が初夏になると咲きだしますが、それらの事はまたの機会に書くことに致しましょう。



りんごの白い花

英国はキリスト教の祝いを国の

祝日として居りますので、イースターは子供たちの学校も長い休暇となります。今年は例年より遅く4月19日～22日が復活祭の休日になります。この頃になりますと街のお菓子屋さんやパン屋さんにはチョコレートのうさぎやイースターエッグ、また十字架をかたどった菓子パンなどが並びます。

キリスト教では復活祭前の40日間をレント（Lent- 四旬節）と言いキリスト様のお苦しみを思う40日間です。多くの信者たちは、何か自分の好きな物（事）を犠牲にして、キリスト様のお苦しみを共に味わいます。例えば食後の甘いものを控えとか、宿題を早くかたづけるとか、試験に備えた勉強をするとか、病人や老人を見舞うとか・・・各自が思い思いの我慢や普段できないことをする時です。

子どもたち、学生さん達にとっても長い夏休みの前には、どうしても越えなければならない山があります。それはGCSE という大きな試験です。英国の制度では現在自分が通っている学校で殆ど全ての科目の試験を受けなければなりません。各自が一人10～14科目についてA～Eの試験成績が付けられます。この成績が高校進学に必要なため、多くの子供たちは一生懸命に勉強をして良い結果が取れる様に頑張ります。高校に入学できると2年後には大学入試の為の試験に備えなければなりません。矢張りどの国でも勉強は大切なのですね。



十字架をかたどったパン



イースターエッグ

「ヘレンハウス」を訪問して

もみじの家の診療に携わってから1年半が経ちました。今年開設3年が過ぎたもみじの家ですが、利用者ご家族の声は喜びの声ではありません。登録者数の増加により入所時の希望が叶いにくくなってきたこと、年齢制限についてなど改善を求める声も増えています。スタッフも利用者の皆さんの希望に添いたい気持ちと、それが全て叶えられないジレンマを抱えながら歩みを進めている中、2019年3月、もみじの家のモデルとなった英国のヘレンハウスを訪問する機会を頂きました。

ヘレンハウスでは施設の見学に加え、スタッフの方々とお話する時間を設けて頂き、患者さんを取り巻く日英間の医療環境の違いを改めて認識する中で、介護者の疲労や入所施設不足、成人移行問題などご家族が抱える悩みや葛藤には違いがなく、取り組まなければならない課題は共通し

国立成育医療研究センター 神経内科 鈴木智

ていることを感じました。ヘレンハウス訪問を通して、同じ目標を持ち活動している施設が世界中にあることを実感し、励まされ勇気付けられるような気持ちになりました。それでも、もみじの家はもみじの家らしく、今できる最善を尽くし、日本の環境に合ったサービスについて模索しながら歩みを続けていくことが大事なのだ、と気持ちを新たにすることのできた訪問でした。



ヘレンハウスの中庭にて

「あと何回手術したら普通になれるの？」

佐藤 奈津

次男幹汰は、切迫早産にて1790gで生まれ、すぐにNICUに入院しました。私は当時大学病院の小児病棟で看護師として働いていました。小さく産まれるお子さんはたくさん見てきたので、未熟児の中でも1700gなら十分に大きく育つと思っていました。しかし全く順調に育たず、数々の病気が見つかり、10回以上手術を受けました。それでも入退院を繰り返す日々です。2歳上の兄が幼い頃、「あと何回手術をすれば幹汰は普通の子になれるのか？」と何度か聞いてきたことを思い出します。

なかなか普通の子にはなれない幹汰ですが、少しずつ入院も減ってきてお家で過ごす時間も増えてきました。医療的ケア児の在宅医療を取り巻く環境も10年かけて少しずつ改善し、幹汰の応援団が増え、親の付き添いなしで学校に行き、地域で幹汰らしく普通の生活が来ている今を幸せに思います。たくさんの方々のサポートにて私自身も幹汰が7歳の頃に常勤に戻り障害児を育てながら救命救急センターで看護師として働くことができています。

もみじの家を利用する間は、仕事帰りに映画のナイトショーを観たり、注入や吸引の時間を気にせず眠ったり特別な時間を過ごさせてもらっています。幹汰ももみじの家で「わくわくする体験」をたくさんしてニコニコそして夜もぐっすり眠っているそうです。

そんな幹汰が今春、特別支援学校の中学部を卒業しました。元気に育っていれば、地元の私の出身中学に通っていたと思います。そんな幹汰に、私の中学の同級生が地元の中学の学ランを幹汰のサイズに試行錯誤し作り直して

くれました。小さい我が子にぴったりの学ランを卒業式に着せてあげることができるなんて思っていなかったのが感謝無量でした。

そして更に、キッズファム財団のフォトプロジェクトでお世話になっているカメラマンさんに桜の木の下で兄と二人制服姿の写真を撮って頂きました。幹汰が小さい頃は、写真を撮ろうという余裕はありませんでした。今だからこそ撮れる少し大きくなった子供達の表情もまた大切な思い出となりました。「弟が普通の子になるように。歩けるように。」と願っていた兄は医療系の道へ進むと決め受験勉強を始めました。子供達が大きくなることは嬉しくも淋しくもあります。小さな幹汰がどんな大人になっていくのかも楽しみです。



或る日の
カフェ便り

さくら茶会

国立成育医療研究センター庭園にて

八分咲きの桜の薄紅色、芽吹き始めたケヤキの黄緑、まだ咲き残るこぶしの白い花が織りなす春一色の中庭に、山田流・太田隆子先生が生演奏される琴の音が流れて、財団メンバーが着物姿で立礼のお点前を始めると誘われたように人々がぽつぽつと見え始めました。

国立成育医療研究センター庭園で3月29日（金）の午後1時半から1時間、「さくら茶会」を開催いたしました。



初めての試みでもあり絶好のお花見日和を期待したのですが、生憎の花曇り。しかも花冷えとなっていました。50人にも上るお客様

とのお子様たちをお迎えすることが出来たのは嬉しい結果でした。

お客様の中には病院の先生方、好奇心から一人で参加して初めてお抹茶を飲んでみた男子、お茶碗の正面を一生懸命に探す若いカップル、お茶菓子の「二人静」を言い当てる物知りの外国人女性、ベビーバギーを停めて一息つくご夫婦の姿がありました。

皆様が日本文化の香りを暫し楽しんで、キッズファム財団の存在と活動について記憶にとどめて頂ければ、第一回さくら茶会は成功だったのではないのでしょうか。風は冷たくてもお茶席だけには暖かい陽光が差したような午後のひとときでした。

今後も四季折々の美しい日本を感じながら、美味しい一服を皆様に提供できる企画を検討していきたいと考えております。



■ 平成 30 年度事業実施報告

1. 支援事業

- 1) もみじの家等短期滞在施設利用料の支援（支援件数 177 件）
- 2) もみじの家等短期滞在施設利用家族への家族写真プレゼント（撮影家族 70 家族）
- 3) もみじの家利用家族へのタオル無償提供
- 4) キッズファミ・カフェの実施（実施回数 50 回＋さくら茶会）
- 5) イベント等への招待…クッキングサロン、ミュージアム、カフェ等
- 6) 必要な支援の把握と新規支援事業計画の検討…家族から要望のあったテーマの講習会実施

2. 啓発事業

- 1) 講演会「すべての子どもを育む社会を目指して ～医療的ケアの必要な子どもと家族を社会で支えるために～」…成城ホール
- 2) 写真展の開催…国立成育医療研究センター外来ホール、JAIFA 東京協会夏季セミナー（よみうりホール）、新宿区立子ども総合センター “ここ・からまつり”、一般社団法人日本医療機器販売業協会新春賀詞交歓会・20 周年記念式典（東京會館）、第 10 回日本小児心身医学会（自治医科大学）等
- 3) 財団の活動紹介…通信の発行 2 回、リーフレットの更新、英語版の作成、資料「医療的ケア児を知ることから始めよう！」更新、ウェブサイトの更新と英語ページの作成、フェイスブック開始
- 4) 地域イベント等への参加…TMC 商店会夏祭り、成育ボランティア主催バザー、砧地区社会福祉協議会講演会
- 5) コンサート、ライブ、ゴルフコンペ
 - ① コンサート…アンサンブル・エンツィアンによるヨーデルとアルプス地方の民族音楽
 - ② コンサート…中村天平さんによるピアノ演奏と村松湧太さんによる尺八演奏と歌
 - ③ カフェライブ…Kayto さんによるアコースティックギターの弾き語り
 - ④ カフェライブ…桜井奈津美さんによるピアノ演奏と歌、奥田百合子さんによるサクソ演奏
 - ⑤ チャリティゴルフコンペ…3 月 5 日、桜ヶ丘カントリークラブ

3. 研修事業

- 1) 国立成育医療研究センターへの委託研修会
 - ① 医療的ケア児と家族のケアを担当する方を対象とした研修会・小児在宅医療研修会（医療技術の講義と実習）…4 回開催・小児在宅医療懇話会（多職種連携に関する講義と討論）
 - ② 一般の方を対象とした研修会・医療的ケア児者の主張コンクール…発表者 8 名
- 2) 財団主催の研修会
 - ① 家族支援研修会・おもちゃの選び方・遊び方講習会（“姫と王子の医ケアの会”との共催）・シドニーの子育て現場から ～福祉と環境～・きょうだい児支援 ～きょうだい児の経験や思いと本音～
 - ② 財団メンバーを対象とした研修会・感染症について
- 3) 研修事業助成のあり方に関する検討

4. 連携事業

- 1) 施設見学…心身障害児総合医療療育センター、東京おもちゃ美術館、新宿区子ども総合センター、自治医科大学子ども医療センター
- 2) 学会、交流イベント等への参加…せいいくケアカンファレンス、聖心女子学院初等科母親学習会、第 63 回日本新生児成育医学会・学術集会市民公開講座、スペシャル・キッズサポーターの集い in 大阪、スペシャルニーズのある子どもと家族支援を考えるシンポジウムと交流会、病児の遊びとおもちゃケア、日本小児心身医学会関東甲信越地方会

5. 募金活動

- 1) 個人だけでなく企業や団体への働きかけ…日本製薬団体連合会、日本産業パートナーズ、程ヶ谷基金、日本医療機器販売業協会、JAIFA 愛のドリーム募金、MOMIJI UK、GIA 社、他
- 2) ウェブサイトの活用…英語での寄付ページ、クレジットカードの取扱い

6. 公益法人化に向けた準備、検討

- 1) 名称及びロゴマークの商標登録…6 月商標登録申請、3 月登録査定受理
- 2) 公益法人に関する情報収集…弁護士、公益法人関係者からのヒアリング実施
- 3) 公益法人化に向けた財団運営に関する再検討及び整備…会計報告や謝金規程を設定

■ 令和元年度事業計画

1. 支援事業

- 1) もみじの家等短期滞在施設利用料の支援
- 2) もみじの家等短期滞在施設利用家族への家族写真プレゼント
- 3) もみじの家利用家族へのタオル無償提供
- 4) キッズファミ・カフェの実施
- 5) 各種イベント等への招待

2. 啓発事業

- 1) 講演会の開催
- 2) 写真展の開催
 - ① 写真展開催箇所の開拓と実施
 - ② 国立成育医療研究センターロビーでの写真展の実施
 - ③ 写真パネルの作成と管理
- 3) コンサート等イベントの開催
- 4) 財団の活動紹介
 - ① 通信の発行 2 回 / 年度（6 月・12 月）
 - ② ウェブサイトの活用
 - ③ リーフレットの改訂

3. 研修事業

- 1) 地域で医療的ケア児と家族のケアを担当する人たちを対象とした研修会
- 2) 家族支援研修会
- 3) 財団メンバーを対象とした研修会
- 4) 研修事業助成のあり方に関する検討

4. 連携事業

- 重い病気を持つ子どもと家族を支援する事業・活動を行っている施設・団体との連携
- 1) 施設見学
 - 2) 学会、交流イベント等への参加

5. 募金活動

- 1) 個人会員の継続及び新規会員獲得への働きかけ
- 2) 企業や団体への働きかけ
- 3) バザー、コンサート、その他イベント等による働きかけ
- 4) ウェブサイトの活用

6. 公益法人化に向けた準備、検討

- 1) 公益法人に関する情報収集
- 2) 公益法人化に向けた財団運営に関する再検討及び整備

平成 30 年度決算報告

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
I. 経常収益		
1. 受取会費	1,860,000	パートナー会員（10,000×118 口） サポーター会員（3,000×160 口） 法人会員（100,000×2 口）
2. 受取補助金等	103,984	
3. 受取寄付金	24,794,912	
4. 雑収益	669,384	
経常収益計	27,428,280	
II. 経常費用		
1. 事業費	19,512,686	
1) 支援事業費	11,858,882	
2) 啓発事業費	4,227,513	講演会、「通信」作成費等
3) 研修事業費	3,359,201	委託費含む
4) 連携事業費	67,090	
2. 管理費	9,716,267	
経常費用計	29,228,953	
経常外費用計	0	
当期一般正味財産増減額	△ 1,800,673	
当期指定正味財産増減額	△ 180,032	
正味財産期首残高	4,104,047	
正味財産期末残高	15,955,690	

History of KIDANI 〈4〉 ドイツにて

当財団理事長、喜谷昌代のボランティア活動の歴史を紹介しています。今回はドイツでのことをご紹介します。1978年、夫の転勤先はドイツ、ベルリンでした。

「国々を移り住む者にとって赤十字はとても便利、どの国の赤十字も大体同じようなことをしているから。」喜谷は新しい国に着くとすぐに、その国の赤十字の門をたたくのでした。しかしドイツの場合は少し勝手が違いました。まず聞かれた質問は、「おまえはドイツ語ができるのか。」でした。ドイツ語が全く話せなかった喜谷の猛勉強が始まりました。そして1年半後、規定の試験に合格しボランティアになる許可がもらえました。ドイツで暮らした7年間、障がい者の生活支援、老人ホームの手伝いや外出の付き添い、



精神病院訪問、アルコール中毒者の家庭訪問、刑務所の保護士、ポーランドへの緊急物資輸送など、“本当に”一生懸命働きました。

1982～3年、ドイツ赤十字は苦境状態のポーランド一般市民のために募金を集め必要な物資を届ける活動をしていました。日本からも募金が届くのですがお金を政府

に送るので一般市民には届かないという状態でした。そこで喜谷が日本赤十字にドイツ赤十字の方法を知らせたところ、「ぜひ一緒に」となりました。ドイツ赤十字を通じて日本



から来たお金でポーランドの人達が必要としている物資を購入し、段ボール箱に詰め、外側には日の丸の旗を貼りました。

これをドイツの荷物とともに丸2日かけて15台のトラックに積み、冬は零下20～40度、入国手続きと税関検査に10時間もかかる国境を越え、15日間に10以上の村を回り、物資を直接家庭や病院に届けたのです。

この運搬に携わったのは約40名の屈強な男性、喜谷はその中でただ一人の外国人、ただ一人の女性でした。

日本からの贈り物をポーランドで必要としている人達の手が届けたい、その強い思いと責任感から喜谷はこの輸送に15回参加しています。

ご寄付いただいた方々ご支援有難うございます

(2018.10.1～2019.3.31)

敬称略

相川 智子 / 赤瀬 康明 / 朝野 春美 / 安藤 愛子 / 井伊 知美 / 池上 典子 / 池末 有貴生 / 石原 景子 / 市川 おさと / 伊藤 美子 / 伊藤 啓子 / 伊東 洋子 / 伊野 公基 / 岩佐 敏子 / 岩下 奈々絵 / 岩間 有喜子 / 榎本 さわ子 / 大漣 憲一 / 大塚 朗子 / 岡 檀 / 岡部 和子 / 沖村 貴美子 / 沖山 邦子 / 尾島 伶子 / 越智 和博 / 小野 登美子 / 角館 勝子 / 片山 成美 / 金子 立 / 川口 智子 / 川瀬 英子 / 菊地原 律子 / 岸本 晃子 / 狐塚 七重 / 鬼頭 とし子 / 木村 幸子 / 工藤 隆司 / 工藤 加寿子 / 栗原 幹雄 / 黒川 晴美 / 小嶋 レベッカ / 五嶋 くみ子 / 小林 浩子 / 小林 京子 / 小松 真由美 / 込田 邦子 / 小山 美由紀 / 坂口 明子 / 佐鹿 博信・孝子 / 佐藤 マリ子 / 嶋田 せつ子 / 島谷 美成 / 清水 佳代子 / 白川 世紀子 / 菅谷 広子 / 杉山 喜美子 / 鈴木 一枝 / 鈴木 文子 / 鈴木 和子 / 鈴木 利幸 / 鈴木 保子 / 砂田 紀子 / 高石 由美子 / 高草木 多佳子 / 高島 佐代子 / 高梨 絹代 / 田中 佳子 / 田原 康生 / 津浦 喜美子 / 津田 敦彦 / 津田 由美 / 土田 和子 / 土屋 幸子 / 寺倉 紀世子 / 土居 和子 / 鳥居 正男 / 中尾 あぐり / 中澤 真由美 / 中谷 桂子 / 中野 由美子 / 中野 喜久子 / 長場 直子 / 永峰 涼子 / 中村 芳子 / 棚川 由紀子 / 西谷 久美子 / 林 久二子 / 野村 美佐子 / 原田 真美 / 久田 辰夫 / 平馬 慶子 / 廣野 紀子 / 福神 邦雄 / 福澤 良美 / 福岡 由美子 / 福吉 砂月 / 藤岡 康 / 藤本 志のぶ / 星 由紀子 / 星 多恵子 / 堀江 ひろ子 / 前田 和恵 / 前田 浩利 / 松本 和明 / 三浦 正充 / 三井 嬉子 / 村上 靖子 / 馬上 英実 / 望月 さち子 / 森 明子 / 森部 加奈子 / 八住 美奈子 / 柳井 三来子 / 山川 好子 / 山崎 佼子・統四郎 / 山羽 啓子 / 山本 初子 / 山本 貴美子 / 湯川 れい子 / 廣田 ゆき江 / 吉田 陽子

/ 吉田 三恵子 / 吉永 映子 / 葦原 一正 / 善本 みどり / 若井 亜紀子 / 渡辺 泰子 / Toyoko Fry / Thompson Kuniko / Lisa Okawa / 匿名17名 / イニシャル3名 (AK・KY・OY)

ご寄付いただいた企業・団体

石垣整形外科 / 一般社団法人 子どもと育ち総合研究所 / ウー・ウェンクッキングサロン / カフェアパートメント183 / 株式会社 エラン / 株式会社 ジョイライフ / 株式会社 東急文化村 ザ・ミュージアム / 株式会社 ナウ・ハウ・センター / 株式会社 ロッテ / 公益社団法人 程ヶ谷基金 / ゴルフスタジオアンフィー / 桜が丘カントリークラブ / JAIFA 愛のドリーム募金 / 首都開発 株式会社 / 聖心会三光町修道院 / 聖心女子学院 中高 もゆる会 / 聖心女子学院 みこころ会 / テームズ会 / 日本料理あきの / 美容室SHUZO / ファットオフ / マンパワーセキュリティ 株式会社 / ヤマト 株式会社 / 大和郷幼稚園PTA / レストラン赤坂クーポール大蔵店 / レストラン「つばさ」 / 日本医療機器販売業協会13社 (海井医科器械 株式会社 / 尾道医療器 株式会社 / 株式会社 秋田医科器械店 / 株式会社 ウイン・インターナショナル / 株式会社 エー・エム・エス / 株式会社 MMコーポレーション / 株式会社 エムシー / 株式会社 キンヤ / 株式会社 ヘルス / 株式会社 リイツメディカル / 東西医用器 株式会社 / 丸木医科器械 株式会社 / 匿名1社)

*募金箱の設置については、多くの企業・団体様にご協力いただいています。設置箇所についてはウェブサイトをご覧ください。

*各種イベントに募金箱を置かせていただいています。



会員募集と ご寄付のお願い

- ★ 財団の活動は、皆様からの毎年のご寄付（年会費）によって賄われております。
- ★ 皆様からのご支援で、一人でも多くの「重い病気を持つ子どもたちと家族」を支えてください。
- ★ 会員の方には、継続的に財団通信をお送りするほか講演会等イベントのご案内を差し上げます。
- ★ 財団通信にて、お名前・団体名を開示させていただきます。匿名およびイニシャルをご希望の方はお手数ですが、財団事務局までメールまたはお電話にてご連絡ください。

◆ 年会費（4月1日から翌年3月31日）

- ① 法人会員 1口 100,000 円
- ② パートナー会員 1口 10,000 円
- ③ サポーター会員 1口 3,000 円

※ 1口からお受けいたします。

◆ ご寄付

金額の多寡にかかわらず、ありがたく賜ります。
ご支援をぜひお寄せください。

□ 口座名義

一般財団法人

重い病気を持つ子どもと家族を支える財団

1. 郵便振替
00140-0-420461
2. 三菱 UFJ 銀行 成城支店
普通 0233800
3. クレジット決済 (QR コード) →



—お知らせ—

- ・秋の講演会 10月27日（日）成育講堂にて開催！
詳細はウェブサイト等でご案内いたしますので、ふるってご参加ください。
- ・アロマボディトリートメントご優待！
各年度（4月～3月）内に1回、もみじの家利用期間中にお母様にご利用いただけます。

おかげさまで…

みなさまに愛される

街角の募金箱

小田急線成城学園前駅に隣接する村田永楽園は、長年地元の皆様に愛されている文具と生花のお店です。この両方のレジに財団の募金箱を置かせていただいています。



駅前という立地の関係で大勢

のお客様が利用されるお店ですので、幅広い年齢層のお客様方がお買い物ついでに募金箱に寄付くださり、また財団の広報活動の窓口としても大活躍の場になっております。地元の皆様から賜ったご芳志は財団活動に有意義に活かして参ります。

（廣野 紀子）

編集後記

キッズファム通信No.5をお届けします。皆様のご支援とご協力のお蔭で前号以来、主張コントロール、コンサート、ライブ、写真展、学会発表など多くの活動を行うことができました。

新しい試みとして、コンサートとカジュアルなライブを親子の方を中心に楽しんで頂いています。普段生の音に触れる機会があまりない方に楽しんで頂けたらと思います。

今回も表紙にファミリーフォトを利用された方々の素敵な写真を載せさせて頂きました。ご協力頂いたご家族の皆さまに感謝いたします。また本号の制作にご協力いただきました加藤文彩さんにも御礼申し上げます。

（担当 大川・池永）



一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団
（キッズファム財団）

〒157-8535

東京都世田谷区大蔵 2-10-1
国立成育医療研究センター内

Foundation for Severely Ill Children and Their Families

TEL 03-5494-1230 Eメール zaidan@kidsfam.or.jp

URL : <https://kidsfam.or.jp> 「キッズファム財団」で検索ください